

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	407190083		
法人名	有限会社 かじかわ		
事業所名	グループホーム めぐみの里 (1号館・2号館)		
所在地	〒825-0004 福岡県田川市大字夏吉364番地	Tel	0947-45-2409
自己評価作成日	令和07年06月10日	評価結果確定日	令和07年07月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel	093-582-0294
訪問調査日	令和07年07月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者とのコミュニケーションや、寄り添う気持ちなどを大切にしています。医療的な知識も、研修などを活かし、職員全員がわかる様に、教育や会議などを行っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田川市郊外の丘の上に位置し、認知症高齢者が重度化しても安心して暮らせる事業所を目指し23年前に開設した定員18名のグループホームである。ホーム提携医療機関医師の往診と看護師、介護職員との連携で24時間安心の医療体制が整い、看取り支援も行っている。代表の地元である強みを活かし、運営推進会議への参加や利用者の紹介、差し入れ等、地域の協力も多い。職員が交代で作る美味しい料理を提供し、赤飯やちらし寿司で祝う誕生会や弁当持参のお花見は利用者の楽しみなひと時である。ホーム内は清掃が行き届き、利用者が一日の大半を過ごすリビングルームでは、貼り絵や塗り絵、オセロ、編み物等に取り組み、利用者は自由にのびのびと過ごしている。管理者を中心にチーム介護に取り組み、家庭的な雰囲気の中で、利用者一人ひとりが安心して穏やかに暮らせる環境を整え、利用者や家族と深い信頼関係を築いている、グループホーム「めぐみの里」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11.12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念に沿った支援を提供できるように心がけている。職員も地域と交流しながら入居者の生活を支援したいと話している	ホームが目指す介護理念を見やすい場所に掲示し、職員一人ひとりが常に目にする事で、職員は理念の意義を理解している。職員が利用者に優しく寄り添い、思いや意向を聴き取り、利用者本位の介護サービスの提供に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントや親睦会を通して地域の人々との繋がりを深めている	代表の自宅跡地に開設して23年目を迎え、日頃から地域の皆さんから多くの協力を得ている。新型コロナ5類移行に伴い、ホームの夏祭りや運動会には家族や地域の皆さんに案内している。自治会に加入し、地域の商店で買い物したり、ホーム前のコンビニエンスストアへ出かけて親しく会話する等、地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の医療機関や福祉機関との連携を強化し、よりスムーズな連携体制を築くことにより質の高いサービスを提供できるようにしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の活動状況を報告し今後の予定も伝え会議で意見は職員に伝え、実践できることはサービスに活用している	コロナ状況を判断しながら運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、ホームの運営や取り組み、利用者の現状を報告し、参加委員からは質問や意見、要望、情報提供を受ける等、活発な意見交換が行われている。会議で出された意見や提案を検討し、出来る事からホーム運営や業務改善に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に代表者が市や包括支援センター広域連合等との連携を図っている。困難事例などある時は助言をもらい対応するようにしている	運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状や取り組みの理解を得て、アドバイスや情報提供を受け、協力関係を築いている。管理者は、ホームの空き状況や事故の報告を行政担当窓口に行い、介護の疑問点や困難事例を相談する等、行政と連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1回身体拘束委員会を行い職員や看護師で家族の方とも話し合い同意の上拘束をしない介護を目指している	2ヶ月毎に開催する運営推進会議の中で、身体拘束委員会より報告を行っている。毎月職員会議を開催し、身体拘束について学ぶ機会を設け、拘束となる具体的な事例を挙げて検証し、職員の意識づけを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待委員会を開き職員の研修に努めている。虐待の発生が疑われる場合その都度開催する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を促進する為成年後見制度の資料を取り寄せ会議時に職員に内容を伝達している	権利擁護の制度について、内部研修会で学ぶ機会を設けている。現在、制度を活用している利用者があるので、後見人とのやり取りを通して職員は、制度の理解を深めている。制度の資料を用意し、利用者や家族から相談があれば、制度の内容や申請方法を説明し、関係機関を紹介出来る体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては特に理解を得たい所は分かりやすく説明するように心掛けている。いつでも質問してもらっていいように面会時など声をかけてもらえる		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族に意見や要望があった時には施設長はじめ職員も含めてできる限り利用者の意向に沿えるように検討、努力します。家族には毎月苑だよりを発行し暮らしぶりを伝えている	家族の面会時や行事参加の機会に、家族に利用者の近況を報告し、家族の意見や要望を聴き取り、ホームの運営や利用者の日常介護に反映させている。毎月、写真と個別のコメント入りの苑便りを作成して家族に送付し、利用者の健康状態と暮らしぶりを報告し、家族の安心と喜びに繋げている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員からの意見を受けて施設長と意見交換し事業全体の運営に反映させていくように取り組んでいる	職員会議は、出勤者で毎月ユニット毎に行い、カンファレンスや研修も兼ねて実施し、欠席者は、会議事録に目を通して内容を確認している。朝夕の申し送り時や昼の休憩時間に、職員の気付きや意見、心配な事等を話し合い、解決に向けて取り組んでいる。代表は、職員の意見や提案を聴き取り、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や他職員について努力や実績勤務態度等を把握し労働形態や時間、給与に反映させている資格取得を目指す職員に対しては研修の参加を目指す職員に対しては研修の参加を勧め職員のレベルアップに努めている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に当たっては性別や年齢の条件はなく定年退職後の経験者も採用することがある。勤務希望にも出来るだけ応じ負担なく仕事に取り組めるようにしている	職員の募集は、年齢や性別、資格の制限はなく、人柄や介護に対する考え等を優先して採用している。職員の希望休の確保やそれぞれの事情を汲んだ勤務時間に配慮する等、働きやすい職場環境である。職員間のチームワークも良く、思い合い、助け合える関係で職員の離職も少ない。資格取得を奨励し、職員が向上心を持って働ける支援に取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	3カ月に1回身体拘束排除や高齢者虐待防止の研修や会議を行っている	利用者の人権を守る介護の在り方を、職員会議や内部研修の中で話し合い、利用者の人権を尊重した暮らしの支援に取り組んでいる。また、「グループホーム利用者の権利」をホーム内に掲示して、職員の意識づけを行い、言葉遣いや対応にも注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や他全職員の個々に応じた研修への参加を促している。資格をとる場合、勤務調整をしたりして対応している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に加入し他のグループホームとの情報交換している		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の聞き取りの際本人の話を受容し不安の解消が出来る様努力する		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時に本人や家族からの意向や困る事等を聞き取り本人が不安なく過ごしていけるようグループホーム入居後も協力し努めます		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでどのような生活を望まれているのか確認し入居したその日から様子を詳細に観察し対応について検討していくようにしている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできることは自身でもらうようにして、集団生活の中での助け合う気持ちも持って職員と一緒にいるようにしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	苑だよりを発行し状況報告をしている。必要時には手紙や電話で通知又本人が電話口で話している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院の診察など本人の関わりのある場所があれば少し遠回りして通ったりしている。入居前の馴染みの人の面会は増えている	新型コロナ5類移行に伴い、近隣からの入居利用者が多いので、家族以外にも親戚、友人、知人の面会が多く、面会時には、ゆっくり過ごせる場所を提供し、また来てもらえるように声掛けしている。家族と一緒に外食に出かけたり、自宅への一時帰宅等、利用者の馴染みの関係がホーム入居で途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居時や入居後に利用者の性格や状態を把握して食事やリビングの席の配置。席替えしたり職員が声掛けしたりしてトラブルを避けている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時はお見舞いに行き亡くなられた時は通夜や葬儀、初盆までは行くようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前や入居時に意向の聞き取りを必ず行っている。家族の意向も確認しながら本人本位になるように努め介護計画に反映している	ホームの日常生活の中で職員は、利用者の思いや意向を把握し、職員間で情報を共有し利用者の日常介護に反映させている。自己選択・自己決定が困難な利用者には、家族や関係者に相談し情報を得ながら、職員が利用者に寄り添い、その表情や仕草から思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聞き取りしたこれまでの生活状況と入居後に本人と話しながら得ていく情報からどんな暮らしをしていたか整理しながら把握し記録もしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況を見ながらそれぞれの状態や有する力について把握するよう努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からも毎月のミーティングや毎日の申し送りから日々の状況を聞き検討し計画に取り入れたりしている	職員は、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望、心配な事等を聴き取り、毎日の申し送りや毎月のミーティングの中で、職員の意見や気づき、提案等を話し合い、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。退院時や入居時には、1～3ヶ月毎に介護計画を見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別の管理表に記録計画作成担当で支援経過も記録しミーティング等でケアに取り入れ話し合い必要に応じて介護計画の見直しをする		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の希望がある時は施設長の判断をもらいスタッフ一同で対応している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護保険サービスや他の支援機関との連携、病院と利用者との連携もとれ安心できるような体制はとれている介護タクシーは必要に応じて活用することもある。分からないことは地域包括相談窓口にて尋ねる事もあり。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診できる利用者はスタッフと共に定期的に通院している。通院が難しい利用者に対しては往診の形をとっている。緊急時にも随時対応している。	利用者や家族の希望を優先して、入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。家族同行をお願いし、医師の話を直接聞いてもらい、帰りにドライブを楽しむ等、利用者や家族の大切な時間になっている。通院が困難になった場合は、協力医療機関の医師による往診に切り替え、家族の負担軽減に取り組んでいる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	分からない事困った事等随時相談している。看護師と介護士と報告、連絡、相談はとれている。医療連携にて定期的な看護を受けている。受診対応助言されて即対応できないこともあるが早目の実施を心掛けている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者全員かかりつけの病院があり連携を図っている。定期的に往診又は定期受診行っており、利用者の現在の健康状態は常に更新されている。病院関係者との関係は保たれている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明をしている。十分納得した上で書面にサインをいただいている。最善を尽くせるようスタッフ一同支援している	ターミナルケアの方針について契約時に、利用者や家族に説明し、看取りについての希望を聞き取っている。利用者の重度化に合わせて家族と密に話し合い、家族の希望を再度確認し、主治医や訪問看護師、介護職員が連携しながら今後の方針を共有し、これまで10数名の看取り支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体での訓練は行えていないが個別に指導を受けて情報交換している。すべての職員が対応できるよう日々の中でも気を付けている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は年に2回必ず行われている。すべての職員が実践できるよう訓練されている	年2回災害訓練を実施し、夜間想定訓練では、近くに住む職員の非常時の対応の確認と連絡網の中に地域住民の連絡先を記載し、緊急時の協力をお願いしている。また、非常災害に備えて、飲料水や非常食等の備蓄を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を把握し対応を行っている。難しいのは会話の内容を違う意味にとられ憤慨な態度になる利用者の接し方が課題だ	利用者のプライバシーを尊重する介護サービスについて、職員会議や申し送り時に話し合い、言葉遣いや対応に注意し、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスに取り組んでいる。また、利用者が部屋で自由に過ごしたり、仲良しの利用者や居室を歩き来して過ごす等、利用者のプライバシーを尊重しながら、一人ひとりに合わせた暮らしの支援に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重して行動している。利用者に耳を傾ける。些細なことでも問いかけて応えてもらうようにしている(何をしたい、何が食べたい等)		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに沿って生活している。無理強いはしない。相手のスピードに合わせて支援を行っている。ストレスを与えないよう心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に洋服を購入するよう支援している。提供された服なども活用させてもらい生き生きとした生活が送れるように思っている。季節によつての服の調整はしている		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いが出来る人には協力してもらっている。毎日の食事を楽しみにしている。	利用者が楽しみにしている食事は、職員が食べたい物を尋ねながら、旬の食材を使って、手作りの美味しい料理を提供している。雑祭を赤飯で祝ったり、誕生会では希望によってちらし寿司を作ったり、弁当を作って花見をする等、食を大切に支援に取り組んでいる。焼きそばやたこ焼きを利用者と一緒に作って食べることも楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養に気を付けた食事を提供している。水分に至っては飲んでいない人には声掛けにて対応している。脱水には特に気を付けている。食事を自身で行わない人にとっては食事介助にて栄養不足にならないよう気を付けている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛けは行っている。入れ歯の人に至っては毎日の入れ歯の取り外し、消毒に至るまでのケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に適した排泄パターンにあった方法でトイレ誘導だったり排泄の導きを実践している。声掛けを行い排泄を行うこともある。失禁には気を付けている。	職員は、利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、車椅子の方やオムツ使用の方もトイレ誘導を行っている。利用者の状況を観察しながら、失禁が無い場合は布パンツに替えてみる等、柔軟に対応し、利用者の自信回復に繋げる排泄支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に関しては配慮している。それでも便秘は引き起こされ下剤や座薬で対処することとなるが、排便チェックはこまめに行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにしている利用者に対して週3回の入浴を施行している。時間を決めてしまわずというわけにはいかず、午前中に入浴してもらっている。	入浴は利用者の希望や体調に合わせて、夏場は週3回、冬場は週2回の入浴を基本とし、湯温や順番等、利用者の思いを聴いて、出来るだけ希望に添えるように支援し、気持ち良く入浴が出来るように努めている。入浴は利用者と職員が一对一でゆっくり会話が出来る大切な時間と捉え、利用者の思いや意向を聞き出している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	病院にて薬の調整をしたり身体を動かして安眠するよう支援している。ベッドメイキングやシーツ等を洗濯して快適に眠れるようにしている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は特に注意をはらっている。再度の確認をし誤訳しないよう気を付けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族の力もあり利用者の生活歴からの趣味から現在に活かしている(読書、編み物等)苑では誕生日会をしたりとイベント行事を開催している		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	一人一人その日の希望に沿っての戸外に出かける支援はできていない。病院対応、買い出し等ありなかなか一人一人のその日の希望に応えられないのが現実だができる限りの支援をしようと模索している	コロナ状況を判断しながら、梅や桜等、季節の花見を兼ねたドライブに出かけ、利用者の気分転換を図っている。天気の良い日は、苑庭に出て外気浴を心掛けている。病院受診の帰りにドライブや買い物をする事も利用者の楽しみである。また、家族と一緒に外食を楽しむ利用者もいて、家族と協力しながら外出できるよう支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設生活においてお金の所持は行っていない。トラブルもある為しかし本人の要望に沿って買い物支援は行っている。一緒に行くこともあり		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかける事はなかなか難しい人が多いが電話をかけて話せるよう手を貸す事は行っている。携帯電話所持の利用者もいる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日の掃除により清潔に過ごせるよう配慮している、トイレも排便等で汚れたらその都度掃除を行っている。リビングには花を置いたりしてリラックスできるような空間を目指している	ホームが高台にあるので、風が通る明るいリビングルームでは、テーブルを囲んで、季節の貼り絵や飾り物を制作したり、職員相手にゲームや体操を楽しんだり、それぞれが自由に過ごしている。玄関前の花壇の手入れ、室内の清掃等も行き届き、清潔で明るい雰囲気の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者の雑談話しは毎日のようにされている。共用空間に集まることで会話が生まれている。たまに喧嘩もおこるが楽しく過ごせていると思われる		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自身で出来ない人はスタッフにより部屋作りはされている。思い出の写真や自身の作品を飾ったりしている。家族が部屋の模様替えをしているところもあり。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者の馴染みの家具や身の回りの物を沢山持ち込んでもらい、利用者が安心して過ごす事が出来るよう配慮し、利用者が自分の部屋に愛着を持って、穏やかに暮らせるように支援している。室内は清掃が行き届き、換気にも注意して、明るくて居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フラットな生活空間において自身での車椅子動作、歩行行っている。見渡せる範囲での生活空間において自身のできることはしていただくスタンスをとっている。スタッフは安全に生活できるように見守り、素早い対処が行えるよう構えている		